

秋田県

④株式会社 アグリテクノジャパン

連携領域: (農)(商)(工)学官他

ここがポイント: 機能成分豊富な無臭大豆「すずさやか」の産地化を実現し、大豆加工品を開発

連携のテーマ

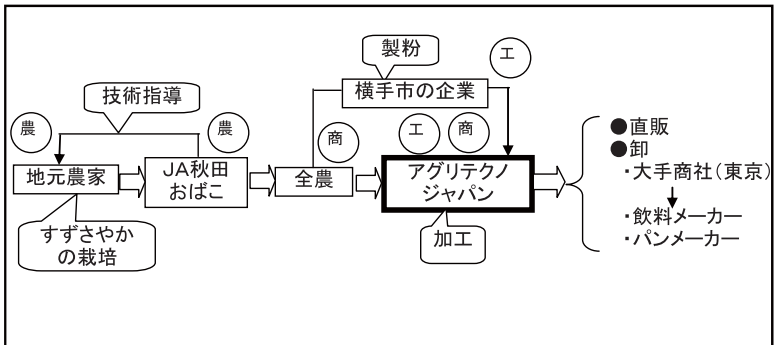
販路開拓 生産性向上 新商品開発 人材育成 ブランド化 商品の差別化
品質管理 資金調達 環境対応(循環型等) その他()

連携の現状

<連携の体制図>



すずさやかを使用した食品



無臭大豆「すずさやか」は、青臭みを取り除くための過程を必要とせず、ビタミンEの他、イソフラボン、サポニンなどの機能成分がそのまま残る。東北農業研究センターにおいて開発され、大半がJA秋田おぼこ管内で生産されている。

(株)アグリテクノジャパンは、平成17年よりJA秋田おぼこ、地元の契約農家と連携して、すずさやかの産地化と大豆加工品の開発・販売を実現した。平成17年は約4トンの種子を収穫、平成18年にすずさやかを栽培して平成19年4月に初めて原料として大豆430トンが確保できた。同年7月に工場がオープンし、「すずさやか豆乳」「すずさやかもめん豆腐」「すずさやかめん」を製造し、販売。地元の250軒の契約農家の栽培したすずさやかを、農家が再生産可能な価格で全量買い上げている。そのうち約2割を「すずさやか豆乳」「すずさやかもめん豆腐」「すずさやかめん」に製造・販売、約8割を大豆のまま販売している。

また品質管理の面では、すずさやかは既存品種の大豆と交配してはいけない(上限2%)ため、JA秋田おぼこの指導で、農地を集団化して一定の地域でのみ栽培し、3年計画ですずさやかの産地化を実現した。

連携の成果

<連携によって実現されたイノベーション>

新たな製品やサービスの提供 新たな生産方法の開発 新たな市場開拓
新たな原材料や半製品の供給源の開発 独占的地位などの新たな組織の出現、または独占の打破

<連携による自社への効果>

すずさやかの産地化により、商品の差別化と半独占化を実現。平成18年度は国内の無臭大豆の約6割、平成19年度は約8割を扱うこととなる。

<連携による各事業者のメリットと地域への効果>

農家にとっては再生産可能な価格で、全量買取による収入の安定。JA秋田おぼこにとっては、今までは米離れからJA離れがおき、求心力を失いつつあったが、この連携によってJAの価値が向上。

地域にとっては、農業離れの防止、若者の定住化を進め、付加価値をつける特産品の開発により地域経済の活性化に貢献。

<今後の方向性>

(株)アグリテクノジャパン、農家、JAが三位一体で取り組むことにより、販路の安定的拡大を図る。

基本情報

事業者概要:大豆(すずさやか)の仕入れ販売、すずさやか丸大豆及び大豆粉末を使用した食品の加工及び販売等
 経営理念・ビジョン:バイオを介在とした通年栽培、地元企業との連携を通じ、地域農業の活性化と地域雇用に貢献する。
 住所・連絡先:秋田県大仙市払田191-1 TEL 0187-87-2030
 従業員数:7名 資本金:1,000万円 設立:平成17年 代表者:代表取締役社長 池田泰久

販路

生産性

新商品

ブランド

差別化

品質